

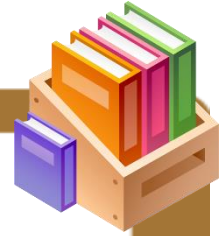


本の紹介♪



著者 苦野一徳
 出版 河出書房新社

☆「学校のあたりまえ」は、本当にあたりまえなのか。特に、公立学校において考えさせられる本です。「そんなこともしていないの?!」その、驚きと同時に見えてくる「何か」を読んだみなさんと共有したいです♪



第2回オンライン部会！「授業レベルでの言葉の理解へ、一歩前進」



1 本質を問い直す

言葉じたいは全員知っていても、「授業レベルでの言葉の理解」が全員で共有できているのかと問われると難しい。例えば、子供の学びを価値付けるの「価値付ける」ひとつをとっても、部会内でズレがある。これは、教師としてのカラーだと言えば聞こえはいいが、一般化を図る上では、そうはいかない。

どのように？の話し合いの前に、「なぜ価値付けをするのか？」といった、本質を問い直すことで、だから「価値付けをするとよい」となる。その上で、「どのように価値付けをするか」を話し合いたいと考えた。

2 話し合いテーマ 「多様における（児童）自らの課題とは？」

児童が学びに向かうためには、一人一人が、自分の課題とどのように出会うかが重要になってくる。よって教師は児童に課題を与えるのではなく、児童自らが課題を見付けることができるように手立てを講じるということが求められる。しかし、ここで立ち止まる必要性を感じた。そもそも「自らの課題とは？」さらに踏み込めば、「多様における自らの課題とは？」を明らかにする必要があるのではないかと考えた。

論点

(1) 低学年と中学年では、「課題」の質が異なるのでは？

低：やってみよう動き 中：できるようにになりたい動き

(2) 単元前半の「課題」と、単元後半の「課題」は、質が高まるのではないかと？

⇒質が高まることはわかるが、その根拠がない。どうやって検証していくのかを考えたい。

(3) 「問い」があってはじめて、子供は「課題」をみつけるのではないかな？

⇒ボールを使って遊ぼう！ → どうやったら上手に捕れるのかな？

(4) 多様の特性は何か？ それを考えることで「多様における課題」が見えてくるのでは？

⇒他領域と異なるところ、それは、「技能」ではなく、「運動」であるということ。

また、誰もが今もっている力で楽しめること。つまり、～しなければいけないではないということ。

一人一人の多様な課題をどう見取っていくのかを研究したい。

3 話し合いテーマ 「児童が自らの課題をもてるようにするために、教師はどうするの？」

⇒このテーマに入るところで時間となった。

①課題をもてるようにするための手立ては？

②それを解決できるようにするための手立ては？

これを1年生と4年生のどちらかで、実際に授業をするイメージで具体的な手立てを考えていきたい。

4 休校期間中に活用できる紙資料や動画資料などの情報共有

・北区立王子第五小の『王五小☆運動遊びメニュー』

・八王子市立鐘水小 動画撮影

・墨田区立第三吾嬬小 動画撮影

・江戸川区立瑞江小 動画撮影

・墨田区立柳島小 動画活用

・これまでの多様部会資料を活用できないか？ 学習カードのようなタイプで。

⇒宿題として、作成して提案していく。大切なのは「やってみたくなる資料」であるということ。

5 次回の部会 ※あくまで予定です。

5月15日（金）18:30～オンライン部会第3回「児童が自らの課題をもてるようにするための教師の手立て」

5月19日（火）18:30～オンライン正副部長会

6 宿題 ※どちらかを選択でもいいですし、どちらも行うでも素晴らしい！

A 「休校中に活用できる資料」

B 「1年生 or 4年生における 『児童が自らの課題をもてるようにするための教師の手立て』」

7 参加して下さった先生方

矢部崇校長先生

森田先生 上島先生 諸星先生 岩田先生 大久保先生 大瀧先生 菊地先生 鈴木先生 高島先生

中本先生 西方先生 原先生 東先生 古山先生 三上先生 水島先生 山本先生 大野

☆参加ができない方でも、電話やLINE等でご連絡くださった先生方もたくさんいらっしゃいました。

その場になくても、共に研究しているという思いはしっかりと届いています。いつもありがとうございます♪
次回もみなさんのことを喜んで待っています。初めての方も、久しぶりの方も、もちろん大歓迎です(^_^)♪